

幸手市立権現堂川小学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】

- 平均正答率

【埼玉県学調】

- 学習方略・非認知能力の平均値
- 学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学調 (平均正答率) 国語・算数とも全国平均を上回っているが、算数に課題が見られる。	算数において二極化が生じており、基礎基本の確実な習得と個に応じた適切な指導が必要である。適用問題を解く時間の確保、振り返りを生かす授業を毎時間継続していく。
②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力県平均越え項目が多い。 ・学力の伸び 特に国語に課題が見られる。小6とも学力の伸びが小さい。	一人一人の長所を伸ばす学級経営により、学習方略・非認知能力が良好な結果になったと考えられる。
③幸手市統一学力調査 (平均正答率) 低学年では全国未満が多いが、高学年になるにしたがい、全国以上が増えている。	低学年時に、書くこと、読むことを中心に、基礎基本を徹底して習得させる必要がある。データの活用については、教科等横断的な学習を生かしていく必要がある。

学びあい 支えあい 高めあい 笑顔あふれる学校を目指して

学校全体での取組



❖ 日々の授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の深化を追究し、日々、授業改善に努めます。深い教材研究、同僚性の向上、積極的な研修への参加を推進して、授業の質の向上を図る。

❖ 学力向上週間の設定

年5回、学力向上週間を設定する。ノーメディア週間も兼ねて位置付け、児童・保護者による学習相談を実施する。

❖ 思考力・表現力の育成

発問の工夫、思考ツールの活用やプログラミング学習により、論理的思考力を伸ばし、自分の考えを言葉や図などでの確に表現できる力を育む。読書の推進、作文指導で文章力を鍛える。

❖ 授業時数特例校制度を生かした学びの充実

授業時数特例校制度を生かし、探究的な学びを深める時間の確保、問題演習時間の確保など、多様な学びの充実を図る。

落ち着いた学級づくり



❖ 学習規律の確立

チャイム着席、姿勢、学習用具の準備、挨拶、返事、話の聞き方、発表の仕方などの学習規律を身に付け、集中力の向上で学習内容の定着を図る。

❖ 学習環境の整備

まず、教師が、言葉遣いの手本となる。教師と子供、子供同士など、相手・時・場にふさわしい言葉遣いができるようにする。整理、整頓、掲示物、板書など、ユニバーサルデザインを意識した安心して学べる環境づくりに取り組む。

❖ 笑顔で通える学校づくり

学習面、生活面で、一人一人の児童に全教職員が関わり、SC・SSW・ふれあい相談員等との連携による教育相談体制を強化し、SSRの整備で、笑顔で通える学校づくりを進める。

学びを深める授業づくり



❖ ゴールを明確にした授業設計

見通しをもって学習に取り組むことで、児童が自分の学習状況を把握し、対話的・協働的な学びで主体的に課題解決に向かう力を高める。

❖ 個別最適な学びの実現

児童一人一人の学びを分析し、ICTを効果的に活用した個別最適な学びを実現する。教師が指導・支援の引き出しを増やし、誰一人取り残さない教育活動を推進する。

❖ 学習調整力の育成

授業の終わりに学びを振り返り、自らの学習状況を把握し、学びの過程や今後の学習について自覚を深め、学びに向かう力を高める。

❖ 指導力を高める授業研究会

校内授業研究会における指導案検討、相互の授業参観、研究協議から指導力を高める。

学校間連携・家庭連携



❖ 家庭学習の充実

年度当初の学級懇談会時に「家庭学習のすすめ」を配付し家庭学習への保護者の理解を深める。「家庭学習ふり返しシート」で取組の実態を分析・把握して、児童が自主的に学習に取り組めるよう支援していく。

❖ 親子読書月間の実施

落ち着いた学習に取り組める家庭環境の創出、児童の情緒安定及び思考力の伸長のため、年間2回の親子読書月間を設ける。同じ空間で親子で読書に取り組むことで、親子間の会話の会話を増やし、思考力の伸長を図る。

❖ 東中学校区の連携

東中学校区の学校に積極的に授業参観に出かけ、授業改善に生かす。4校合同学校運営協議会等で学力の課題を共有し、解決に向けた具体的な方策を検討する。